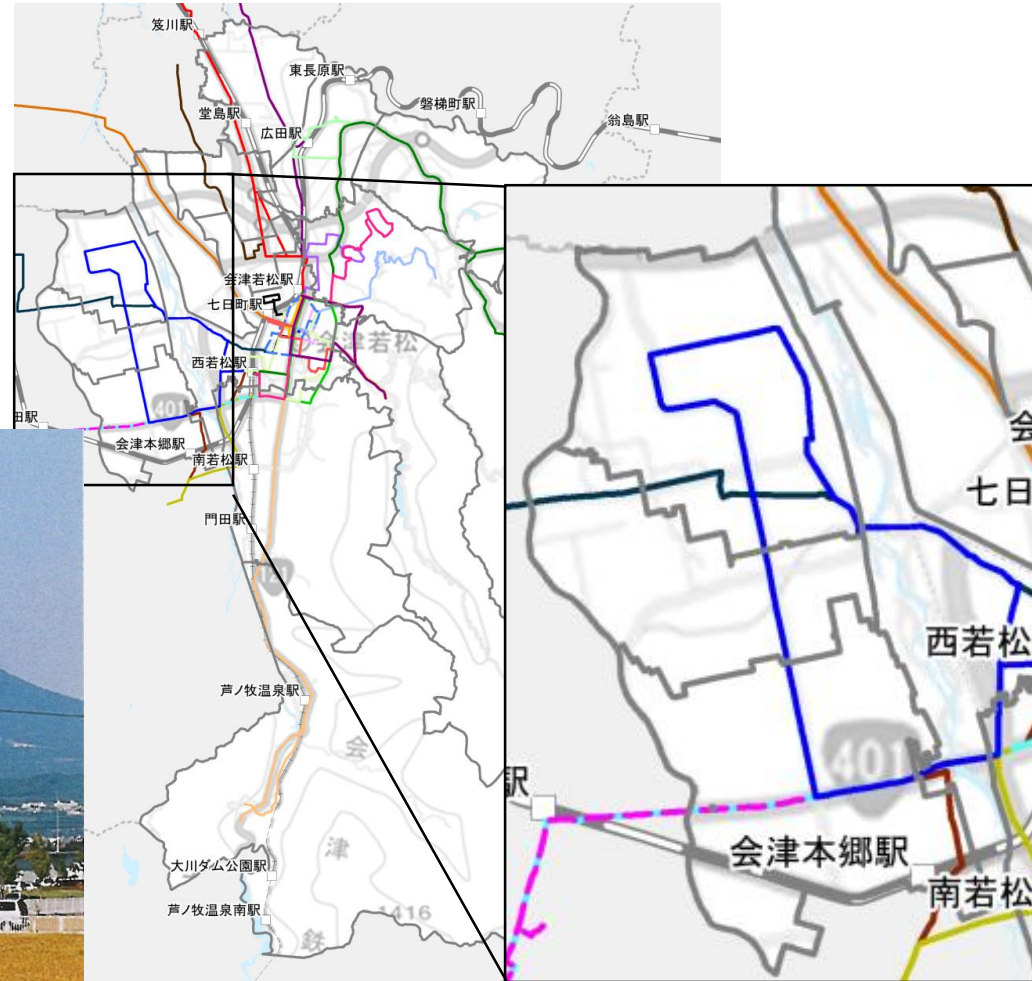
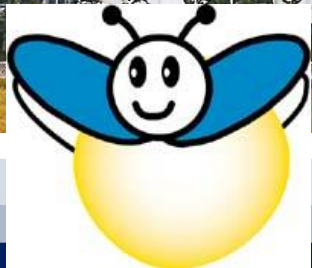
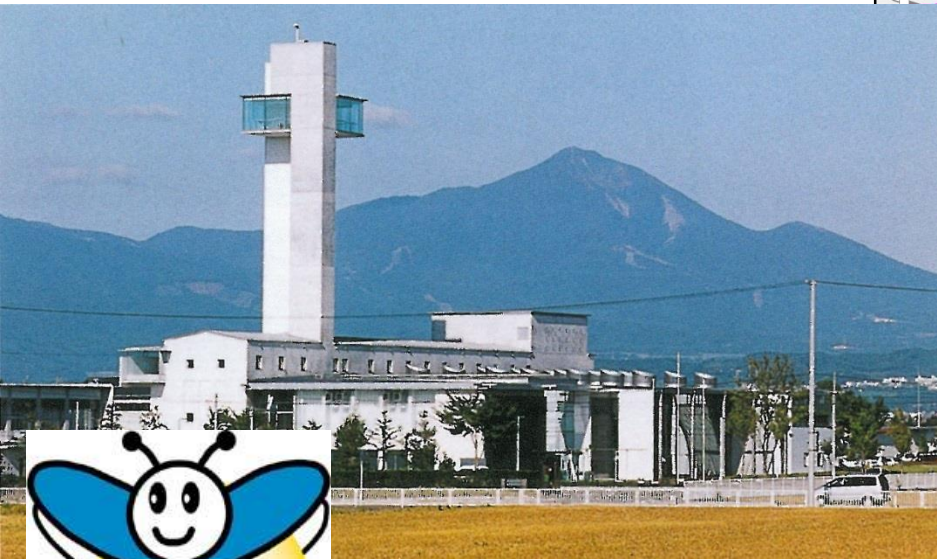


北会津地区の公共交通再編に関する取組 ～北会津地域の“ようたし”を考える～

<概況>

- 平成16年に会津若松市と合併
- 3地区、50町内会(集落)
- 人口：約7,400人
- 世帯：約2,350世帯
- 主産業：農業



平成29年1月20日 地域バス活性化セミナー・地域公共交通フォーラム
(北会津地域づくり委員会事務局・会津若松市北会津支所まちづくり推進課)

北会津地域の公共交通の現状と課題

ピカリン号 (市コミュニティバス)

運行本数 高田橋廻り：午前 1 本、午後 2 本
 蟹川橋廻り：午前 1 本、午後 2 本
 ※冬期間は蟹川橋廻りが1本増



合併に伴う新市の一体感の醸成及び地域間の交流促進を図るために運行

地域の方々からは、見直しを求める声
 ⇒どのように見直していったら良いか

新鶴温泉線 (市委託路線バス)

運行本数 北会津発：午前 2 本、午後 2 本
 若松駅発：午前 1 本、午後 3 本

高田線 (国県補助幹線路線バス)

運行本数 北会津発：午前 14 本、午後 13 本
 若松駅発：午前 11 本、午後 16 本

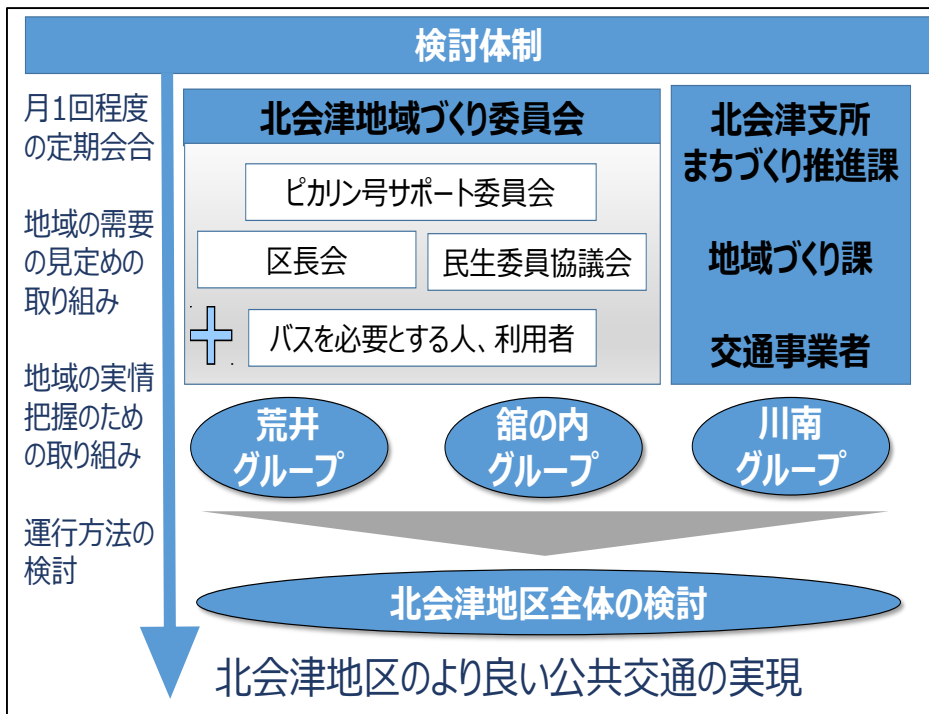
本郷線 (国県補助幹線路線バス)

運行本数 北会津発：午前 4 本、午後 3 本
 若松駅発：午前 2 本、午後 4 本



北会津地域づくり委員会における検討経過 地域づくり委員会

北会津地域づくり委員会において、平成28年度取り組みの一つとして、公共交通の見直しの検討（「北会津地域の“ようたし”を考える」）を行うこととなる。



北会津地域づくり委員会（平成25年7月設立）
住民参加・協働のまちづくりの実現に向けて、地域の身近な問題を話し合い、解決に向けた取組を実践しながら、地域一体となって取り組む組織

地域づくり委員会	需要の見極め 地域の実情把握	運行方法の検討
6月 第2回 ・全体方針の説明	地域への聞き取り調査 (記名式アンケート)	
7月 第3回 ・地域データの共有 ・3地区に分かれてGW		地域との協議
8月 第4回 ・聞き取り調査経過報告 ・運行ルート検討		
9月 第5回 ・聞き取り調査結果報告 ・運行方法検討		
第6回 ・利用者との意見交換会	利用者との意見交換会	運行事業者との調整
10月		
11月	利用者アンケート	
12月 第9回 ・北会津地域におけるバスネットワーク(素案)の検討		

6月から、月1回程度の意見交換等を重ねる。

「地域や利用者が必要とされる公共交通をつくっていきたい・・・」

行政、地域の両者において共通の目標を持って検討を進めることができたのでは 3

【荒井地区グループ】

- 学生の利用に配慮が必要。
- 広域幹線の充実か、地域内交通運行による交通システムか、検討と議論が必要。
- 開津線の復活を希望。



【館の内地区グループ】

- 地域内交通が高田線など便数の多い路線に接続すれば支障ないのでは。
- 地域内交通は、公民館など活動拠点を經由するようにすれば、利用者も増えるのでは。

【川南地区グループ】

- ターゲットとして免許保有率が低い単身高齢女性とすべき。
- 買物利用をモデルコースに考えられないか。
- 学生は自転車などで利用頻度が低いと考えられる。



バスが走っているところは、より本数を多く、より便利にして欲しいとの意見・要望
一方、バスが走っていない所は、週1回でも良いので運行して欲しいとの意見・要望

地域づくり委員会で検討することで、各地区の意見や要望を調整しながら、北会津地域全体のことを考えたバス運行のあり方が検討できたのでは

需要の実態把握～記名式アンケート調査

＜荒井地区＞						
地区	町内会名	世帯数	単身高齢女性の数	利用者見込み		確認状況（単身高齢女性など）
				最小値	最大値	
荒井	下荒井	103	8	4	8	・単身でも、元気で免許を持っていれば車を運転しておりバスは使わない。 ・高齢者のみ世帯の方が可能性があるかもしれない。 ・学生も何人かは使っていると思う。ただ、部活の子は定期を買ってまで使わないと思う。
荒井	下荒井団地	31	5	3	5	・よくバスを使っている人は何人いる。 ・学生は自転車か送迎。特に、学鳳は送迎せざるを得ない。
荒井	蟹川	66	6	3	7	・3人程度バスを使っている人がいる。単身女性の方は高齢のため、バスは使っていない。 ・学生は基本自転車。冬は送迎。
荒井	真渡	46	2	0	0	・単身女性は今も同居。可能性があるのは単身男性だが、バスは使っていないように思う。 ・高校生は夏自転車冬は送迎。農家は冬農閑期なので送迎しやすい。バスはお金もかかる。
荒井	真宮新町南一丁目	120	6	8	8	・住民票上で単身女性になっている人は皆世帯分離で同居。 ・バス利用者は同居だが免許を持っていない高齢女性。 ・高校生は現状は自転車か送迎。ただ、朝夕の時間帯を厚くすれば学生はもう少し乗ると思う。
荒井	真宮新町南二丁目	270	22	8	17	・真宮中からバスに乗っている人はそこそこいる。単身高齢者だけではない。 ・学生は晴れの日には自転車。雨の日も冬期間は自転車かも。
荒井	真宮新町南三丁目	99	3	2	4	・バス利用者は、単身世帯よりも高齢者のみ世帯かも。 ・男性より女性の方が外出するので、バスを使う。 ・学生は基本夏は自転車、冬は送迎。ただ、冬にバスを使っている学生はいるかもしれない。
荒井	真宮新町南四丁目	70	3	2	4	・単身女性のうち2人ぐらいはバスを使っていると思う。 ・バス停名がまぎらわしいので変えてほしい。 ・高校生は自転車か送迎が多いと思うが、朝バスに乗っているのは見たことがある。
荒井	真宮新町北	99	4	0	1	・単身女性も含め、あまりバス利用する人はいないと思う。 ・工業団地への通勤客をターゲットにした方がよいと思う。 ・高校生は基本的に家族が送迎している。
荒井	鈴淵	23	2	0	1	・単身女性は今もバス使わない。高齢者のみ世帯も今は車。 ・高齢者にとってはバス停が遠いので、集落内に入ってきてもらわないと厳しい。 ・高校生はバスを利用しているかもしれない。ただ、冬はバス停まで距離があるので、家族が送迎していると思う。
荒井	中里	19	0	0	1	・バス停に関する意見を出した人がいたので、バスを使う人はいるかも。 ・学生は自転車か送迎。
荒井	石原	15	2	3	4	・バス利用は単身女性ではなく、同居の高齢女性。 ・現在は高校生はいない。
荒井	田村山	19	3	1	3	・単身女性は今もバスを使っていないように思う。単身が男性が使っているかも。 ・高校生は自転車か送迎。バスは使っていないと思う。
荒井	安良田	18	1	0	0	・単身女性はおらず、可能性があるのは高齢者のみ世帯か。 ・現在高校生はいないと思う。
荒井	宮ノ下	25	0	0	0	・現在バスを使う人はいないと思う。バス停が集落から離れており、高齢者は使えない。 ・学生は自転車か送迎だが、学生はバスを使うこともできないはない。
荒井	館	14	1	1	1	・高齢者はバス使っていない。高齢者以外で1件バス停がある。 ・高校生は基本自転車か送迎だが、雪のことを考えてバスを使っていない。
荒井	出尻	17	0	1	1	・基本バスを使っている人はいないが、1件可能性あり。 ・学生は基本自転車か送迎。
荒井	和泉	41	1	1	1	・和泉はバス停が遠いため、バスを利用しない前提でいる。バスは使わない。 ・高校生は自転車か送迎。バスを使おうとする人はいる。
荒井	白山	6	0	0	0	・単身女性はおらず、2人ぐらい高齢可能性がある人はいる。 ・等々対等しており、バスは使っていない。 ・現在高校生はいない。ただ、昔は自転車か送迎で通学。
集計欄		1,101	69	37	66	



実質的に把握した需要に基づいた、バス運行の検討が可能となったのでは

利用対象者との意見交換会の実施

地域づくり委員会において検討してきた内容や運行方法のイメージを、実際にバスを利用する人に集ってもらい、率直な意見・本音の意見を聞く。

第6回北会津地域づくり委員会
(意見交換会) 平成28年9月16日



バスを使う人

一緒の場で検討

地域のために
一生懸命取り組む人

● 利用対象者からの主な意見

広域路線

- 再編全体の方向性としては、**現状より良くなる**と思う。
- 再編後、荒井地区から**縦の移動ができず不便**。
- **なくなるバス停**の利用者は不便になるのでは。



定時定路線乗合プチバス

- 週1回のもいいがせめて**週2回は運行してほしい**。
- **縦の移動**は公共交通の空白地域でなくても必要。



予約型乗合プチバス

- 事前予約が必要な西病院の送迎バスを利用しており、**予約すること自体はそれほど手間ではない**。
- **自宅近く**で乗り降りできるのは助かる。
- 500円程度の運賃であれば**安い**と感じる。



乗用タクシー活用

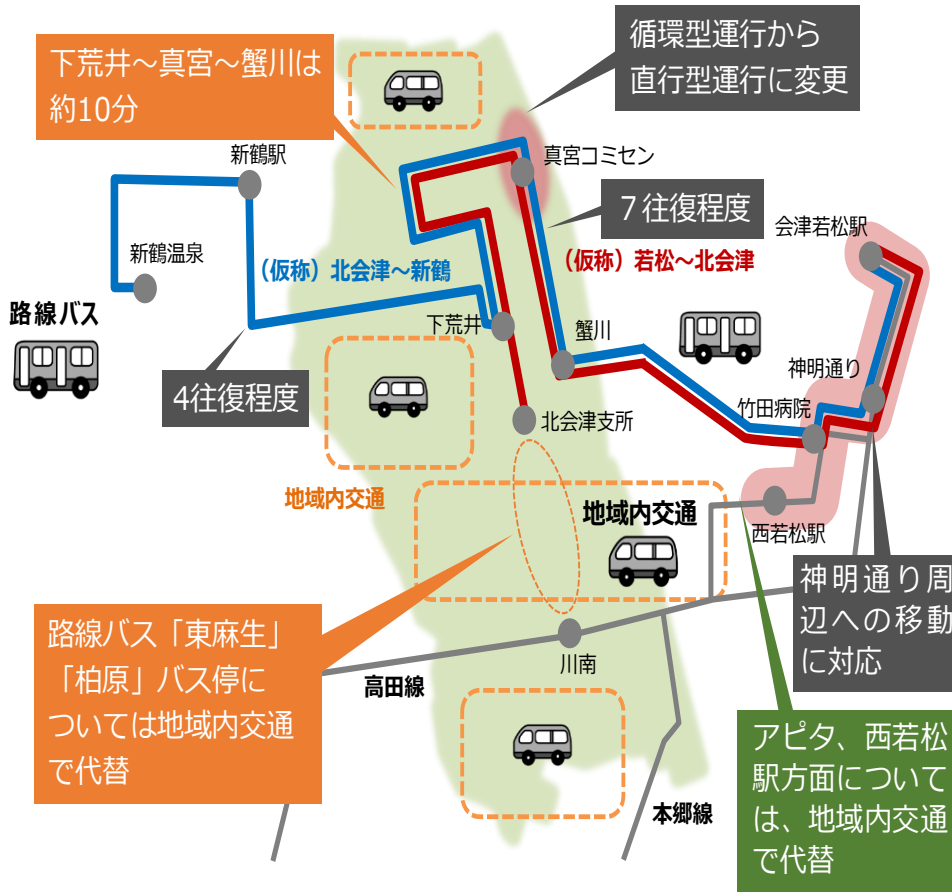
- 地域の交通手段としてタクシー活用は**違和感**がある。
- **短い距離**のタクシーは申し訳なくて使えない。



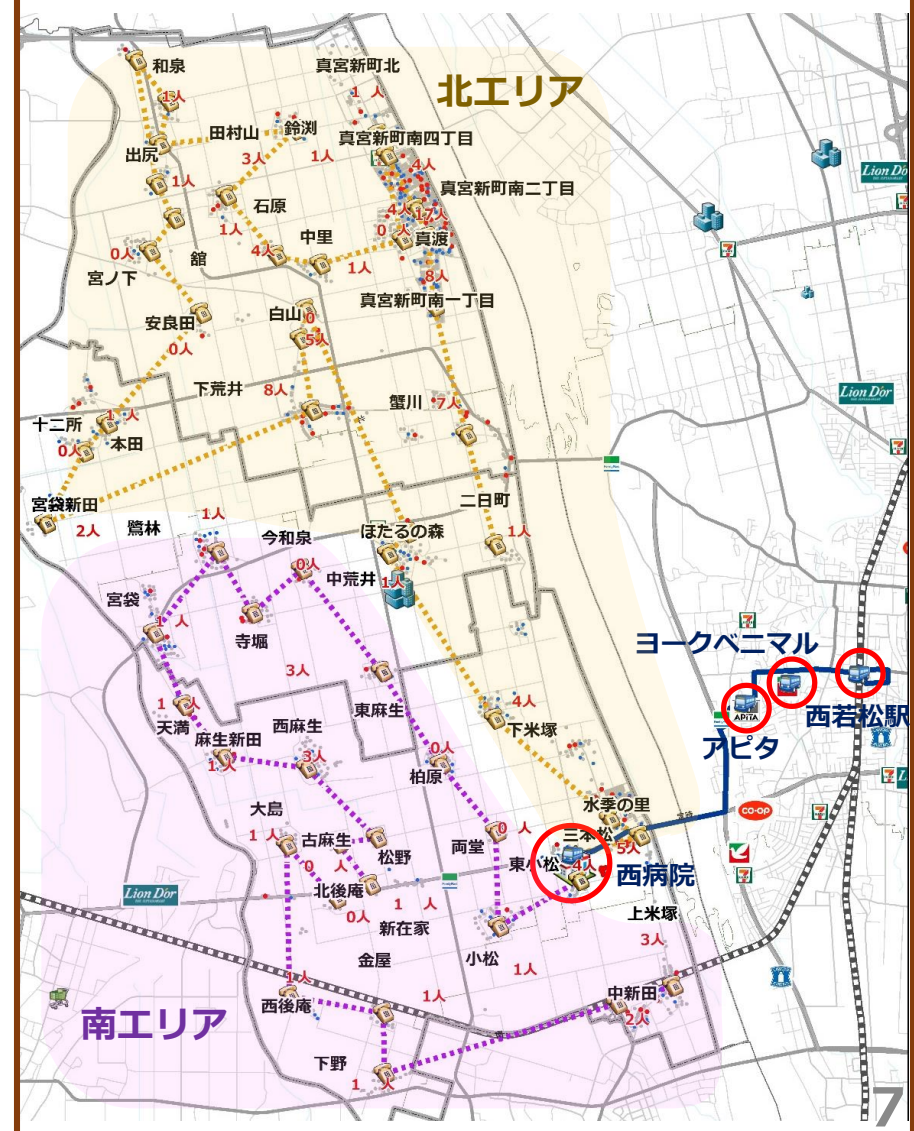
行政、地域づくり委員ともに、
「バスに乗る人」のことを考え、
運行のあり方を検討する良い機会となったのでは

地域に必要とされる公共交通を目指して

【再編イメージ】



地域内交通の運行のイメージ (予約型の乗合プチバス)



現在、地域づくり委員会において、運行内容の素案づくりに向けて、検討を進めています

地域に必要とされ、利用される公共交通としていくために、今後とも、地域の方々と一緒に取り組んで参りたいと考えています